大阪の福祉を知るみんなの情報誌

ウェルおおさか

vol.142　2023年2月号
隔月発行（偶数月1日）

特集　どもっている（吃音）子どもたちへの正しい理解と啓発

●図書・資料閲覧室からのお知らせ
●講座案内

大阪市社会福祉研修・情報センター　https://www.wel-osaka.com

特集

どもっている（吃音）子どもたちへの正しい理解と啓発

吃音とは、「どもる」状態のことで、なめらかに話すことができないという意味で「流暢性障がい」とも言われています。吃音は、2～5歳頃からはじまることが多く、このうちの約8割は自然になくなりますが、残りの2割は、吃音を伴ったまま大人になります。現在、吃音のある人は100人に1人で、決してめずらしい障がいではありません。

吃音のある人にとって、最大の問題は、吃音そのものではなく、吃音に関する誤情報が通説として浸透していることです。このため、周囲からの正しい理解を得られないばかりか、吃音の悪化や二次障がいを引き起こしてしまいかねません。

今回は、吃音の正しい理解と啓発のために、私たちに何ができるのか考えてみたいと思います。

「どもらずに話そう」とするほど悪化する

吃音といえば、「ぼ・ぼ・ぼ・ぼくは」のように言葉の最初を繰り返す「連発」がよく知られていますが、ほかに、「ぼーーく」のように言葉を伸ばす「伸発」、最初の言葉が出しづらい「難発」があることをご存じでしょうか。多くは、連発から始まり、周囲から指摘され、「どもらないで話そう」と工夫することで連発が伸発へ、さらに、のどが締め付けられるように、息が詰まる苦しさを伴い、言葉が出づらく身体を使って声を出そうとする難発へと悪化していきます。

吃音のスイッチが入るのは、人と話そうと構えるときで、ひとり言や動物に話しかけるときは、どもることはありません。夢の中で人と話していると寝言でもどもることがあります。また、吃音には波があり、人・場所・話の内容・時期によって変化します。このように吃音と一口にいっても、症状は複雑で個人差があります。

間違った認識が当事者と家族を苦しめる

吃音は、まだ原因が特定化されておらず治療法もわかっていないため、症状に関する理解も十分に広まっていません。親のしつけやストレス、愛情不足が原因といった、さまざまな誤情報が一人歩きし、そのことで周囲からの非難や間違った助言をされた親は、傷つき、孤立感を強めてしまう恐れがあります。

中でも、注意しなければならないのは「吃音について話題にしてはいけない」という間違った考え方です。しかし、この誤情報を信じ、親が吃音に気づかないふりをして、何もしないまま様子をみていては、専門家に出会えないか、出会っても受診が遅れ、症状が悪化してしまいます。専門家による助言・指導を早期に受けることで、吃音の悪化を防ぐことができます。

知ってくれている大きな安心感

吃音のある人とその親が、世間一般に浸透している間違った考えや方法を回避して、正しい情報にたどり着けるかは、将来に大きな影響を与えます。そして、吃音のある人が、症状を悪化させることなく、ありのままで安心して話せる環境を整えることが大切で、そのためには、周囲にいる人が吃音を正しく理解することが欠かせません。

次ページからは、吃音のある子の親の思い、当事者団体の活動、吃音の専門家で言語聴覚士の堅田利明さんには、吃音の正しい知識とそれを広げる意味についてお話を伺いました。

「育て方のせいだ」と自分を責めていた

大阪吃音親子の会　代表 **小野　弘美**さん

「そのうち治る」と気づかぬふり

「息子に吃音があることに気づいたのは3歳の頃でした。誰かに教えられた記憶はないのに『意識させると治らないから』といった思い込みで、吃音には気づかないふりを息子にしていました」と話すのは、大阪吃音親子の会代表の小野弘美さん。

「マ・マ・マ・マ・ママ」（連発）に始まり、4歳には「マーーーママ」（伸発）と工夫するようになります。小野さんは、「連発が無くなり良くなってきていると思っていた」と話します。小学3年生の頃には、体を揺らして調子を取らなければ言葉が出せない難発が中心の話し方に悪化し、かなりつらそうで、どうしていいのかわからなくなっていました」

それでも、吃音の話をしなかったのは「吃音の話題を息子にすると治らないと思い込んでいたからでした。息子が道で転んだら『痛く無い?』『けがは無い?』と声をかけるのに、言葉が出なくなってしまっていて困っている息子には一言も言えませんでした」

子どもはずっと苦しんでいた

小野さんが大阪市立総合医療センターの小児言語科を受診したのは、子どもが小学5年生のときでした。「息子は吃音に気づいていないと思っていましたし病院に行くのを嫌がるだろうと思いましたが、受診の話を息子にしてみたところ『うん、行く!』と即答でした。堅田先生（P4）に息子を診てもらい、『（息子さんは）もう、とっくに吃音を自覚していますよ』と言われました。思い返せば、意識させてはいけないと思いながらも、『ゆっくり話してみたら』などと意識させていたように思います」

息子は学校で吃音をからかわれていたようでした。

「思うように言葉がでないことに困惑しながら回りの人から笑われたり『ゆっくり話して』などと言われたりする中で、『ちゃんとしゃべらないとあかん』とひとりで抱えて頑張ってきたのだと思います。息子が最も困っていたときに親として話を聴いてあげることができなかった。今でも胸が締めつけられます」

思いをはじめて打ち明けられた

病院が主催する「吃音のある子どもを持つ親の会」という座談会に小野さんが参加したとき、息子さんは小学6年生でした。初めて出会う人たちばかりでしたが、同じ悩みを持つ人たちを前に、旧知に会えた気分でした。

「息子の吃音に気づいてからの8年、誰にも言えなかった思いを初めて口にできたときの気持ちは、いまでも忘れられません」

親子の対話も変わりました。

「以前は、息子の話し方にばかり気が向いてしまって話の中身は二の次になっていました。吃音を理解し、親子で向き合えるようになってからは私も息子もずいぶん気持ちが楽になりました。息子は今35歳になりますが毎日の対話が楽しみです」

自分たちの経験を役立てたい

同じ思いの親たちが集う座談会で元気をもらえた小野さんは、通院する何人かの人と「大阪吃音親子の会」を立ち上げることを決意しました（P3）。

「うちの子は受診が小学5年生でしたが、少しでも早く吃音について親子で話せる場をつくってあげることは大切です。大人になってから就職のときまで吃音の正しい知識と出会っていないというのは大変悲しいことです。就職の面接試験時に吃音について告げることはとてもハードルの高いことです。小さい頃から周りの人に吃音を理解してもらうことを親子で取り組んで行くことが将来のための練習になると思います。私たちができなかったことを、これからの若い人たちにぜひ役立ててもらいたいと願っています」

▲『子ども関係研修「どもった話し方（吃音）のこどもたちへの正しい理解と啓発」』での大阪吃音親子の会の活動紹介

一人でも多くの人に吃音を知ってほしい

大阪吃音親子の会

▲子どもたちが、結婚し孫ができていても、苦しみを乗り越えてきたメンバーだからこその絆がある。

専門家も交えた、安心して話せる場

大阪吃音親子の会は、大阪市立総合医療センター小児言語科が主催する座談会『吃音のある子どもを持つ親の会』で出会った親たちの有志により2008年に発足されました。月1回の例会で活動について話し合うほか、大阪と長野で行われる座談会と協働しています。

「例会では、吃音の子どもの親同士で、悩みや思いについて語り合います。専門家を交えた勉強会も開きました。学んだことを家に持ち帰ってもらい、親子で吃音の話ができることを推奨しています。周囲の理解が進まずに苦慮することはありますが、知恵を出し合って乗り越えてきました」と代表の小野弘美さんは振り返ります。

情報過多の時代にこそ、精選された正しい知識を

座談会との協働は、会の発足当初から大阪は14年目、長野で9年目を迎えます。副代表を務める稲田都希代さんは、最近の保護者の傾向についてこう話します。

「今のお母さん方は、ネットなどで吃音の情報を探し、ある程度の知識をもって参加されますが、情報が多すぎるために、何が正しいことなのかがわからなくなっています。だからこそ、正しい知識を整理して伝えることが大切です。これまで、自身の体験を伝えることをしてきた私たちでしたが、14年経った現在は、親御さんのお気持ちをまずはしっかりと聴かせていただくことを大切にしながら座談会に臨んでいます」

活動を通じて親も子も成長できた

子どもとの関わりや吃音に対する考え方など、活動を通じて変わったのでしょうか。

「私にも吃音があります。吃音には色々な症状があるように、捉え方も違う中、話しやすい環境を心がけて乗り越えてきました」（植田和枝さん）、「言語聴覚士の先生から『この子に吃音さえなかったらいいのにって思っていませんか。いつか吃音を含めてこれが○○君だと思える日が来ますよ』といわれ、向き合って行こうと思えたことを覚えています」（稲田都希代さん）。

「吃音について親子で話し合える関係をつくるためには、親がまず吃音を前向きにとらえることです。それが子どもにも浸透していきます」（片山真澄さん）。

「上の息子が吃音の弟の話を全校生徒に伝えたことがあり、息子は『自分の吃音を知ってくれている人がいることが嬉しいし、そのうえで、なんで?と聞かれるのは、全然ええねん』と言う姿を見て成長を感じました」（梶嵜恵美さん）。

就職時のエントリーシートに吃音があることを書いて挑んだ人もいました。「吃音がある自分をわかってもらったうえで、ほかのことも見てほしいから」「めちゃめちゃ悩んで考えてきたことは、自分の強みになるから自信をもって書く」（村田ゆう子さん）。正しい情報がない中で、吃音の話題を避けてきた親子の歩みとは異なり、自己肯定感がしっかりと高まっているようです。

専門職の啓発に力を入れたい

子どもとは吃音のことも含めコミュニケーションがとれるようになったものの、周囲の吃音の理解・啓発はまだまだ進んでいません。

親子の会では園や学校現場、社会に対する吃音の理解を広める活動を積極的に行っています。「大きなきっかけとなったのは、就職試験の面接のときになってはじめて自分の吃音と向き合うことになって悩んだという人の新聞記事を読んだ時でした。すぐ近くで座談会を開いてきたにもかかわらず、この親子に出会えなかったことに悔しい思いをしました。こういう親子を無くしたいと思い、行動せずにはいれなくなりました」と小野さん。特に理解・啓発を進めたいのが医師、保健師、園や学校関係者などの専門職。専門職の助言は保護者に強い影響をもたらし、子育てに直結します。専門職から「しばらく様子をみましょう」と言われてしまい、何も対処をしないでいることで、親は自身の子育てを責め続け、子どもは人前でどもらないように話そうと努力し、話せなくなってしまいます。正しい知識を親子に届けたい。それには専門職の協力が不可欠です。

あなたも、吃音（きつおん）を正しく伝えてもらうメッセンジャーに

関西外国語大学短期大学部 准教授
堅田 利明さん（言語聴覚士・教育学博士）

長年に渡って誤解されてきた吃音

吃音が始まることを発吃と言います。発吃は幼少期に始まることが多く、そのうちのおおよそ8割の人は何もしなくても吃音が消えてしまうという不思議さがあります。ですが2割の人は吃音とともに暮らしていくことになります。この人の吃音は将来消えるであろう、この人の吃音は残っていくであろう、といった明確な判断はたとえ専門家といえどもできません。そして、吃音を完全に無くすための方法は世界中どこにも存在していないのです。

こうした状況下で吃音が消えてしまった人がたまたま当時行っていた様々な事柄、「習い事を少なくした」「ゆったりした生活を心がけた」といったことが独り歩きして伝わっていきます。吃音の正しい知識がなかなか伝わりにくいのはこうしたことが影響しています。

細かな解明はこれからなのですが、吃音の原因は脳の働きに起因するものと考えらえています。ですから、緊張や早口が発吃の原因ではありません。厳しいしつけの結果であるとか本人の性格特性、ストレスが発吃の原因でもありません。

周囲の無理解によって苦しい話し方に

「吃音はそのうち無くなってしまうものだから」という安易な判断で何も対処をせずに「様子を見る」ことを続けていきますと、次第に話しづらくなっていき、やがては声が出せなくなる「難発」が現れてきます。「難発」はたいへん苦しい状態です。2・3歳の子どもであっても「難発」になります。その過程を詳しくお伝えします。

発吃によって最初に現れるのが「あ・あ・あ・ありがとう」のような話し方である「連発」です。本人は、この「連発」を伴った話し方に何ら困ることも無く話し続けます。そのうち、周りの人から「どうしてそんな話し方するの?」と指摘されるようになり、「連発」に意識を向け始めます。ただし、周りの人から一度も指摘を受けたことがなくても自ら気付いて意識し始める人もいます。その結果、「連発」を出さないように話そうと工夫を始めます。「あーーーりがとう」と伸ばして言う「伸発」が出現してきます。やがて「伸発」も指摘されるようになり、本格的に気を付けて話そうと頑張ります。すると、「連発」「伸発」を伴わずに言えるようになります。気を付けて話さなくては、という思いはさらに高じていきます。すると最初の言葉がスッと出てこなくなる「難発」が現れるようになります。出しにくい言葉を何とか言おうと足を踏み込んだり手を振り下ろしたりする随伴症状も現れてきます。苦しさのあまり別の言葉に言い換えて話したり、話すことを避けようとしたりします。顔を真っ赤にして絞り出すように話すわが子の姿や園や学校を行きしぶるようになって初めて保護者は専門家のところに子どもを連れていきます。他方、言い換えを巧みに使いながら工夫をすれば周囲の人は気づきません。ですが、いざというときに声が出せず、将来の不安も重なり「こんな簡単なことも言えない自分なんてダメだ」と自尊感情が失墜していきます。吃音の複雑化による「二次障がい」です。

吃音のある人にとって、吃音を伴った話し方は自然なもの

吃音の最大の問題は、吃音を伴った話し方を本人も周囲の人も直さなければいけないものだと考え、それを実行することです。発吃によって現れる「連発」を伴った話し方は、言いづらいわけでもなく、正さないといけない誤った言い方でもありません。発吃後、本人が「連発」に気付いているかいないかにかかわらず、保護者や周りにいる先生・大人が本人に、「連発を伴って話しても大丈夫」「連発を出さないようにするとだんだん声が出なくなってしまうんだよ」と教えてあげてください。吃音のある人の周りにいる人達にも同じように教えてあげます。それがあって吃音のある人は、吃音を伴った自然な話し方を安心してそのまま話し続けてくれます。

自然な「連発」はその後、増えていくことはありません。いざという場面では「連発」を伴わずに言うことも容易です。なによりも、苦しい「難発」になってしまうことを防止できます。このように吃音は早期からの周りの理解に加え、吃音に対する自己理解を育てていくことが必須なのです。何もしないで「様子を見る」ことは、「難発」によって声が出せなくなってしまう不安をより一層高め、自尊感情に影響をもたらし、思春期の人格形成にも重大な事態を引き起こしてしまう可能性があるということを知っていただきたいのです。なんとかごまかしながら過ごしてきた学校時代から今度は社会人として独り立ちしていかなければなりません。「大人になれば何とかなるから」に当てはまらない人たちがいるのです。

幼少期の子どもに会う機会が多い方々が、吃音のある子どもにはもちろん、その保護者・家族に、周りにいる人たちに正しい吃音の情報を伝えていってくださるメッセンジャーになってくださることを願っています。

アシスタントワーカー導入等による福祉・介護人材支援事業

新たな人材「アシスタントワーカー」

アシスタントワーカーとは?

介護施設等において掃除や食事の片付け、洗濯、物品の補充等、
直接介助に携わらない業務を担当する“介護職場の人材”です。

「介護のしごと就職フェア」に出展しました!

11月11日(金)にあべのハルカス、11月15日(火)に阪急グランドビルにて、「介護のしごと就職フェア」が開催されました。令和4年度からアシスタントワーカー導入に取り組んでいる3施設も出展し、職場のPRや就職希望の方への面接を実施しました。

アシスタントワーカーについての相談コーナーでは、たくさんの方にお越しいただき、「アシスタントワーカーってどんな仕事をするの?」「資格が無くても大丈夫?」「子育て中でも働ける?」など、自分に合った働き方を探されている方から、たくさんのご相談をいただきました。中には、お話をしていくうちにアシスタントワーカーに興味、関心を持たれ、相談後すぐに出展施設へ直接お話をしに行かれた方もおられました。

令和4年度アシスタントワーカー導入施設は下記に掲載しております。ご興味を持っていただいた方は、ぜひお気軽にお問い合わせください。

アシスタントワーカー採用についてのお問合せは、下記までお願いします。

令和4年度　アシスタントワーカー導入施設

社会福祉法人　亀望会

特別養護老人ホーム
江之子島コスモス苑

〒550-0006
大阪市西区江之子島1-8-44
☎06-6225-2662
FAX06-6225-2663

公益財団法人　淀川勤労者厚生協会

介護老人保健施設
よどの里

〒555-0033
大阪市西淀川区姫島2-13-20
☎06-6473-5152
FAX06-6473-0151

社会福祉法人　今川学園

障がい者支援施設
今林の里

〒546-0001
大阪市東住吉区今林3-1-87
☎06-6791-1211
FAX06-6791-5700

大阪市立総合医療センター

第7回 慢性腎臓病(CKD)セミナー WEB開催

プログラム

あいさつ　腎臓･高血圧内科部長　**小西　啓夫**
①腎移植のおはなし　腎臓･高血圧内科医長　**濱田　真宏**
②腎臓病と遺伝のおはなし　腎臓･高血圧内科副部長　**森川　貴**
③腎臓を守るためのお食事～たんぱく質制限～　栄養士　**對馬　和**

視聴日時

2023年2月16日(木)12:00から3月2日(木)12:00まで

視聴方法

①病院のホームページへアクセス
大阪市立総合医療センター　検索

②右のQRコードからアクセス
③下記視聴用URLを直接入力でも可能です
http://onl.tw/qDdEWP8

問合せ
大阪市立総合医療センター 地域医療連携センター
〒531-0021 大阪市都島区都島本通2-13-22　☎06-6929-1221(代表)

World Kidney Day

令和4年度 思春期関連問題市民講座 参加無料

摂食障がいの理解と対応

摂食障がいは、若年での発症、男性の発症、コロナ禍での増加も見られています。
摂食障がいの理解と対応について、この機会に学んでみませんか?

日　時／**2023年2月8日(水)14:00～16:00**
場　所／大阪市こころの健康センター　大会議室
(大阪市都島区中野町5-15-21 都島センタービル 3階)
講　師／なにわ生野病院心療内科･心理カウンセリングルーム主任
公認心理師･臨床心理士　**武久　千夏** 先生
対象者／大阪市内に在住･在勤の方
定　員／40名　　**締　切**／2023年2月7日(火)
申　込／電話･メール･FAXにて、参加される方の
①氏名(ふりがな)　②住所　③電話番号をお伝えください。
申込先／大阪市こころの健康センター
☎06-6922-8520　FAX06-6922-8526
kokoro@city.osaka.lg.jp

講座案内

研修につきましては、次の措置を講じたうえで実施する予定です。

- 研修中は常に換気を行うこと
- 参加者間の距離を1メートル以上確保し、お互いの接触は避けること
- 演者等と聴衆との距離を1メートル以上離し、お互いの接触は行わないこと
- マスク着用の徹底及び消毒液を常備し、手に触れる箇所の消毒に努めること
- 後日、状態を確認できるようにするため、参加者の氏名、連絡先を取得すること
- 今後の臨時休館の取扱状況によっては、中止又は延期する場合があります。ご理解いただきますようお願いいたします。

●福祉従事者向け研修

申込み多数の場合は抽選です。締め切り後に、事業所あてに決定通知を送付します。

研修名	日　時	受講対象者	講　師	内　容	その他
科学的介護について	2月20日(月) 13:30～16:30	大阪市内の福祉関係施設・事業所に勤務する職員30人	国際医療福祉大学 大学院 教授　石山　麗子	介護サービスにはエビデンスを求められる時代となっています。科学的観点からの根拠を確立する一手段として厚生労働省は令和3年度から科学的介護情報システム(LIFE)の運用を開始しました。科学的根拠とはなにか、科学的介護を用いて利用者本位の介護実践は可能なのかを学びます。	定員:30人 締切:2月10日(金) 受講料:無料 【開催形態】 オンラインと会場との併用
「やさしい日本語」セミナー ～福祉・介護現場で 活用するために～	2月28日(火) 14:00～16:00	外国人を雇用している、または雇用に興味のある大阪市内の福祉関係施設・事業所職員20人	「やさしい日本語」 有志の会 代表　花岡　正義	「やさしい日本語」は外国人・高齢者の方、障がいのある方をはじめ誰にでもわかりやすいユニバーサルデザインとして福祉の現場でも活用されています。実際に現場で活用できる「やさしい日本語」の作り方等を学びます。	定員:20人 締切:2月16日(木) 受講料:無料
住民と共に進める “地域における公益的な 取組み”の推進講座	2月21日(火) 13:30～16:30	大阪市内の福祉関係施設・事業所に勤務し、地域福祉実践への意欲を持っている方や社協職員30人	京都光華女子大学 健康科学部 医療福祉学科 准教授　南　多恵子 (社福)京都福祉サービス協会　地域共生社会推進センター代表・高齢者福祉施設「本能」「西院」施設長 河本　歩美	社会福祉法人・福祉施設がそれぞれの強みを生かし、そこに地域(住民はもとより、社会福祉協議会も含めた地域の諸団体)との連携も大切にしながら地域づくりを進めていくためには、どのような視点が必要か、また具体的な展開をどのようにしていけばよいのか、法人内に「地域共生社会推進センター」を立ち上げチャレンジする法人の実践事例と効果的な実践的な手法等を学び合います。	定員:30人 締切:2月10日(金) 受講料:無料 【会場】 大阪府教育会館 たかつガーデン 3階　ローズ 大阪市天王寺区 東高津町7-11
相談支援機関の 連携・協働のための研修 【オンライン研修】 カメラ付きPC、タブレットで参加できること(1日当たり5GBを使用できるネット環境が必要) インターネットへの有線接続またはWi-Fi環境が準備できること	3月6日(月) 13:30～17:00	大阪市内の相談支援機関に勤務する相談員 地域包括支援センター、ブランチ、区障がい者基幹相談支援センター、地域活動支援センター(生活支援型)、生活困窮者自立相談支援窓口、見守り相談室等の相談員	龍谷大学社会学部 現代福祉学科 准教授　樽井　康彦	複合的な課題を抱えるケースを理解し、アプローチしていく場合の留意点や、相談支援機関が連携、協働による支援を進めていくうえでの必要な視点などを学ぶとともに、事例をとおして具体的な連携・協働による支援の方法を学び、相談支援機関の相談員のスキルアップを図ります。	定員:36人 締切:2月15日(水) 受講料:無料
職場研修推進・ OJT推進研修	3月7日(火)・ 3月14日(火) いずれも 10:00～16:30	下記①～④すべてに該当する方 ①福祉施設・事業所・法人において指導的立場にある方、または今後指導的立場を期待されている方 ②ご自身の職場の人材育成の取り組みを予め整理して、研修当日に意見交換できる方　③2日間とも研修に参加できる方　④【事前課題】を持参できる方 【事前課題】「職員育成で意識していることや配慮していること」について、具体的な事例を挙げてご記入ください。詳細は、受講決定通知に同封します。	関西福祉科学大学 大学院 社会福祉学研究科 教授　津田　耕一	福祉職場における人材育成の充実が必要とされるなか、各職場における「職場研修」の推進がますます重要となっています。特に、業務の経験を通して実践的に学ぶOJT研修(OJT:on the job training)は人材育成の基本であり、指導的職員に期待される役割のひとつです。 本研修は指導的立場にある職員を対象に、職場研修推進の考え方、OJTの重要性と推進体制を理解していただき、職場での効果的な指導方法と具体的な進め方について学びます。	定員:36人 締切:2月10日(金) 受講料:6,000円+テキスト代1,000円

★日程及び締切日は、主催者の都合で変更する場合があります。

●福祉従事者向け研修の申込み方法▶当センターのホームページから申込むか、申込用紙をダウンロードしてFAXでお申込みください

申込・問合せ先　大阪市社会福祉研修・情報センター　〒557-0024 大阪市西成区出城2-5-20
☎06-4392-8201　FAX06-4392-8272　HPhttps://www.wel-osaka.com　kensyu@shakyo-osaka.jp

図書・資料閲覧室からのお知らせ

図書・DVD新着情報

図書紹介

物語〈ナラティブ〉で学ぶケアマネジャーのための ソーシャルワーク実践 ささえる・つながる・ひろがる

福富 昌城　ほか　著
第一法規　2022年

利用者と利用者家族との面接・アセスメント技術、サービス事業者や多職種との連携技術、地域資源の活用・開発の考え方や実践技術、高齢者の権利擁護(高齢者虐待や成年後見制度の利用)への対応、ケアマネジャーのスーパービジョンの意義と方法について解説。

図解でわかる 対人援助職のための精神疾患とケア

植田 俊幸　ほか　著
中央法規出版　2022年

精神疾患の病態、症状、治療法から、かかわりの工夫、ケア手法までをわかりやすく解説。豊富な図とイラストで視覚的に理解でき、精神疾患のある人にかかわる支援者や看護職、ケアマネ等の相談援助職はもちろん、当事者にも読みやすい1冊。

集まる場所が必要だ 孤立を防ぎ、暮らしを守る「開かれた場」の社会学

エリック・クリネンバーグ　著
英治出版　2021年

1995年のシカゴ熱波で生死を分けた要因に社会的孤立があった。つながりを育み、暮らしと命を守るには何が必要なのか？　あらゆる人が受け入れられる「社会的インフラ」の価値を、社会学者が解き明かす。

こどもの吃音症状を悪化させないためにできること 具体的な支援の実践例と解説

堅田 利明　編著
海風社　2022年

発吃からその後2割は吃音をもったまま成長するという現実を前提に「吃音を治す」から「吃音を悪化させない」「吃音をもったまま自由にコミュニケーションをとる」といった転換に向けて奮闘する専門家や教育現場の先生方、保護者の実際の支援の例と詳しい解説の書。

DVD紹介

認知症の人 本人に学ぶ～パーソン・センタード・ケアと認知症について考える～

シルバーチャンネル　130分　2021年

2020年に仙台市でおこなわれた、市民公開講座「認知症の人本人に学ぶ～パーソン・センタード・ケアと認知症について考える～」の一部を収録したDVD。認知症の当事者　丹野智文さんと、パーソン・センタード・ケアの実践者を迎え、「認知症の本人から学んだこと」について語り合った内容。

ごぼう先生といっしょ! 春・夏・秋・冬 目と耳で楽しむイス体操

キングレコード　35分　2020年

イスに座りながら簡単に楽しく行える、ごぼう先生によるイス体操。外出が困難になった人でも四季を感じられるように春夏秋冬の風景映像などが楽しめるBGVと共に、それらに合わせたゆったりマイペースな体操を提案する。

僕が跳びはねる理由

KADOKAWA　82分　2022年

重度の自閉症を抱える作家・東田直樹が13歳の時に発表したベストセラーを映画化。自閉症者の内面がその行動に与える影響、自閉症という障がいが意味するものについて、世界各地の5人の自閉症の少年少女の姿やその家族の証言を追い明らかにしていく。

パブリック 図書館の奇跡

バップ　119分　2021年

アメリカのシンシナティで、大寒波によって命の危険を感じたホームレスの集団が図書館を占拠。その突如として勃発した大騒動に巻き込まれたひとりの図書館員の奮闘を軸に、予測不可能にして笑いと涙たっぷりのストーリーが展開する、いくつもの社会的な問題提起をはらみながらも、温かな人間味に満ちあふれた感動作。

大阪市社会福祉研修・情報センター2階にある「図書・資料閲覧室」では、社会福祉に関する書籍などを無料で貸し出しています（認知症、介護技術、手話のDVDや、福祉関係雑誌などが充実しています。）

●図書・約18,700冊　●DVD・約1,000本　●雑誌・約25種類

開室時間／月曜日～木曜日・土曜日 9:30～17:00、金曜日 9:30～19:00

貸出期間／2週間（図書・雑誌等は5冊、DVD・ビデオは5本まで）

利用資格／貸出し期間（2週間）内に、来館しての返却が可能な方

※郵送での返却はできません

※初回の登録時には、住所・名前などの証明ができる本人確認書類(免許証・保険証など)をご持参ください

休 室 日／日曜日・祝日（土曜日は除く）・年末年始

問合せ先／☎06-4392-8233　お電話で図書・DVDの予約も承ります

大阪市社会福祉研修・情報センター

- 参加申し込み受付中の研修が一目でわかる。
- 貸室の利用状況が確認できる。
- 情報誌「ウェルおおさか」の電子版を見ることができる。
- 図書・資料閲覧室に置いてある本の紹介が見られる。

ホームページ も
フェイスブック も要チェック!!

- センターの最新の情報が確認できる。
- 研修の告知や報告をしています。受講の参考に。
- 研修以外にもセンターでの催しや普段の様子も。
- 更新頻度が高い。

▶▶▶詳しくは ウェルおおさか 検索 で検索!!

今月の自助具／靴下洗濯袋（視覚障がい者対象）

主な適応疾患・対象者▶視覚障がいの方

機能・特徴

- 靴下を揃えたまま網袋に入れることで、バラバラにならないように洗濯ができる。
- 袋口が大きく開き、出し入れ動作が楽にできる。

使い方

- ファスナー付きの網袋に、靴下をセットにして袋の内の仕切りに入れて洗う。

資料提供・問合せ▶**特定非営利活動法人　自助具の部屋**
☎FAX**06-4981-8492**（月・水・金　10:00～15:00）
NPO自助具の部屋ホームページ▶

健康生活 応援グッズ

「立つ・座る」を安全に

抱え上げ介助をなくし介助者の負担を軽減

●たちあっぷ ひざたっちC 回転式

クッション付きの膝当てにより、利用者の膝折れの心配がなく、安心して立位保持や移乗ができます。ベースに乗ったまま回転できるので、脚・膝が無理な体勢になることなく方向転換できます。

置くだけで生活動作を広げる床置き型手すり

●ルーツ

安定感に優れた安全な床置き型手すり。ぐらつきが少ないため、転倒などの事故を防ぎます。工具不要で簡単に高さ調整ができます。

トイレ空間でのケアが1台で可能に

●SA 手すり

従来のひじ掛けタイプの手すりに加え、立ち上がり補助のU型補助手すりをプラス。トイレ空間の移動や方向転換、便器からの立ち座りなどの一連の動作を補助する洋式トイレ手すりです。

問合せ

公益社団法人関西シルバーサービス協会
介護情報・研修センター福祉用具展示場
〒542-0012　大阪市中央区谷町7-4-15
大阪府社会福祉会館1階
☎・FAX06-6763-1480
HPhttp://kansil.jp

令和4年度　社会福祉史の市民講座　**受講料無料**

大阪における特別支援教育の歴史を学ぶ

～私立大阪盲唖院・大阪市立思斉学校の設立から今日までの支援教育～

1900年（明治33年）、実業家・五代五兵衛（ごだいごへえ）によって私立大阪盲唖院（初代院長　古川太四郎（ふるかわたしろう））が開設され、大阪における盲唖教育の新たな歴史が始まりました。また、1940年（昭和15年）には、日本初の知的障がいのある児童・生徒を対象とした養護学校として、大阪市立思斉学校が設立されました。これらの設立から今日までの歴史を学び、改めて大阪における特別支援教育について考えましょう。

五代　五兵衛氏

日時／令和5年3月4日(土)　14:00～16:00

講師／（社福）大阪市障害者福祉・スポーツ協会
障がい者スポーツ振興部スポーツ振興室
参事　**小山　直幸**氏

経歴／元大阪市立視覚特別支援学校　校長
元大阪市立思斉養護学校　校長

私立大阪盲唖院

会場・問合せ先／大阪市社会福祉研修・情報センター4階　会議室
〒557-0024 大阪市西成区出城2-5-20
☎06-4392-8201　FAX06-4392-8272

定員／40人(先着順)

対象者／大阪市内在住・在学・在勤であればどなたでも参加可能

申込方法／センターホームページもしくは電話にて受付

申込締切／2月20日(月)午後5時必着　※定員に達し次第締切

※車いす使用の方、手話通訳、拡大文字資料などが必要な方は、その旨ご記入ください。
※新型コロナウイルス感染症の拡大状況よっては、中止又は延期する場合があります、予めご了承ください。

チラシが作りたい
パンフレットが作りたい
カタログが作りたい
…でも、どうやって作ったらいいの

それ、アド・エモンに
おまかせください

納得のご予算で

企画から取材・撮影・デザイン・
印刷・納品にいたるまで、あなたのイメージを
トータルでカタチにします。
下記まで気軽にご相談ください。

TOTAL CREATION
AD.EMON
株式会社 アド・エモン
〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目北1-23 丸丹ビル306号
TEL:(06)6358-1010 FAX:(06)6358-1011 E-mail:info@ad-emon.com
http://www.ad-emon.com

〔広告〕

大阪市社会福祉研修・情報センター

メンタルヘルス相談

（オンラインでの相談も可能です）

疲れやすい、やる気が出ない、眠れない、対人関係がうまくいかない…。仕事上のストレスなどから生じる悩みの相談窓口です。ご本人からだけでなく、同僚や上司の方からのご相談も受け付けています。

相談・予約電話　**秘密厳守　相談無料**

ハ　ロー　サン　キュー
06-4392-8639

対　　象／大阪市内在住またはお勤めしている福祉職員
相談方法／電話・オンラインまたは来所
相談日時／毎週土曜日と第1・3水曜日
いずれも9:30～16:00
※予約に関する問い合わせは、平日でも受け付けています。
相 談 員／臨床心理士

詳しくはウェルおおさかホームページで▶
https://wel-osaka.com/mentalhealth

大阪市内の社会福祉施設を対象としたメンタルヘルスに関する出張研修を行っています
当センターへご相談ください。（☎06-4392-8201）

CENTER INFORMATION
大阪市社会福祉研修・情報センターのご案内

開館時間／9:00～21:00まで(土・日曜日は9:00～17:00まで)
図書・資料閲覧室は9:30～17:00まで(月～土曜日)※毎週金曜日19:00まで
休 館 日／国民の祝日(土・日曜日と重なる場合は除く)、年末年始(12月29日～翌1月3日)

項　　目	直通電話番号	お問合せ時間
会議室など利用の問合せ	06-4392-8200	9:00～21:00(土・日曜日は17:00まで) (会議室の申込・お支払いは9:30～17:00)
研修関係の問合せ	06-4392-8201	9:00～17:00
図書・資料閲覧室の問合せ	06-4392-8233	9:00～17:00

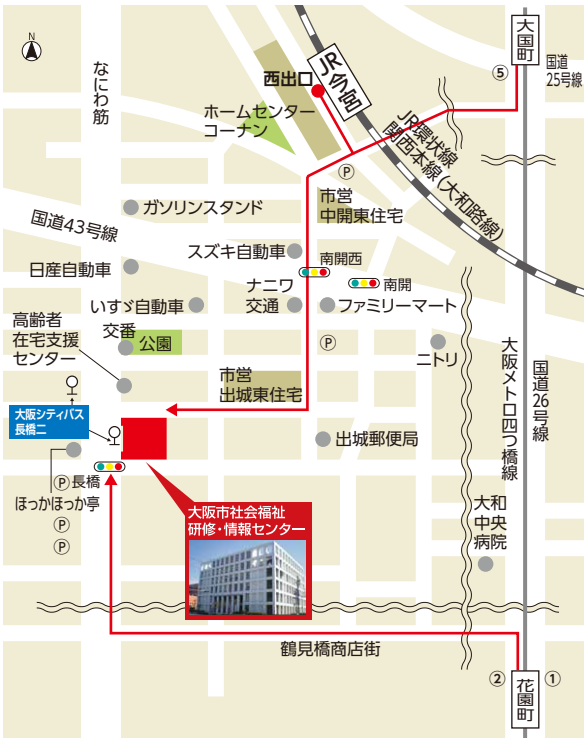
貸室ご利用の皆様へ

貸室予約がオンラインで24時間パソコンやスマートフォンから可能となりました。

ホームページの【貸室のご案内】よりログインし、ご予約ください。
初めてご利用される方は、事前にお問合せください。 ウェルおおさか 検索

利用申込の受付は6か月前からです。

利用日の6か月前(6か月前の同じ日)から、インターネットでの予約、または電話や窓口でご確認のうえ所定の用紙でお申込みください。
電話や窓口での受付は、9:30から17:00まで。
☎06-4392-8200　FAX06-4392-8206
※インターネットでの予約可能な期間は、利用日の6か月前から利用日の1週間前までです。
FAXでの申込み可能な期間は、利用日の6か月前の9:30～利用日の3日前までです。
※当分の間、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、利用条件を変更しています。
詳しくは、ホームページの【貸室のご案内】をご覧ください。



■会議室等の使用料

利用できる貸室および料金は、次のとおりです。ご予約は利用日の6か月前からです。

(単位:円)

室区分	利用人員のめやす	時間区分	午　前 9：30～12：30	午　後 13：00～17：00	夜　間 18：00～21：00	全　日 9：30～21：00
4階	会議室	48	3,800	5,100	3,800	11,400
	会議室 東	16	1,900	2,600	1,900	5,800
	会議室 西	24	2,900	3,800	2,900	8,600
	介護実習室	16	5,700	7,600	5,700	17,100
	演習室	8	1,000	1,300	1,000	3,000
5階	大会議室	72	5,800	7,700	5,800	17,400

※新型コロナウィルス感染症拡大防止対策のために利用人員のめやすに制限をかけています。ご了承ください。

交通／ご来所には【大阪シティバス】【JR】【地下鉄】をご利用ください

●**大阪シティバス**
「長橋二丁目」バス停すぐ
52系統(なんば ～あべの橋)

●**JR大阪環状線・大和路線**
「今宮」駅から徒歩約10分

●**地下鉄・四つ橋線・御堂筋線**
「花園町」駅(①・②出口)から徒歩約15分
「大国町」駅(⑤出口)から徒歩約15分

所 在 地／〒557-0024 大阪市西成区出城2丁目5番20号
設置主体／大阪市
運営主体／(指定管理者)
社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会
電　　話／☎06-4392-8200(代表)
ファックス／FAX06-4392-8206
U　R　L／https://www.wel-osaka.com

Facebookもチェック

「ウェルおおさか」に広告を掲載しませんか
詳しくはお問合せください…▶大阪市社会福祉研修・情報センター
☎06-4392-8201　FAX06-4392-8272　kensyu@shakyo-osaka.jp

人権啓発キャッチコピー
〔テーマ〕いじめ問題
誰だって　生まれた瞬間　ある人権
三山(みやま)　美月(みづき)さん(令和3年度「人権に関する作品募集事業」キャッチコピー　中学生の部　優秀賞)